

## 緊急人道支援学会 ラウンドテーブルセッション 国内災害対応における効果的な支援調整にむけて

### ■ 要旨

国内災害対応における支援調整に関する研究プロジェクトでは、これまで日本国内で推進されてきた『支援調整』について、1) 緊急人道支援における国際潮流と日本の現状がどうなっているのか、2) 能登半島地震への対応における調整の組織とその活動、および 3) 能登半島地震対応における調整にかかる費用の資金調達の3点を研究課題にあげ、能登半島地震への対応を事例として調査を実施した。調査により日本国内において支援調整が根付くための課題や学びを抽出し、今後の大規模災害に備えるための学びや示唆と提示することを目指している。

本セッションでは、能登半島地震への対応に関する調査結果を共有する。本調査は、能登半島地震で被災した4つの市町(珠洲市、輪島市、能登市、七尾市)における行政、市社協、および NPO 等の関係者へのインタビューを実施した。調査の結果、様々な支援調整について好事例が見られ、多くの知見が得られたが、同時に様々な課題も見られた。これらの得られた知見、および課題を共有し、さらに、1) 調整への住民参加、2) 中間支援組織と情報共有会議、および3) レジリエンスと多重災害の3つの視点についても学びや課題を提示し、それぞれのテーマについてディスカッションを行う。

### ■ 略歴および発表内容

桑名恵 / くわなめぐみ 「レジリエンスと多重災害」

近畿大学国際学部 教授

大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程修了(博士:人間科学)。緊急人道支援学会事務局長、特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム副代表理事、特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン理事。コンゴ民主共和国、イラク、東ティモール、アフガニスタン、南スーダン、ミャンマー、スリランカ、日本国内などでの人道支援における事業立案、実施、モニタリング・評価に関わる。著書に、『緊急人道支援の世紀』(共編、ナカニシヤ出版、2022年)他。

柴田裕子 / しばたゆうこ 「中間支援組織と情報共有会議」

主に NGO において国内外での人道支援に携わる。日本の NGO でのアフガニスタン駐在経験を経て、パキスタン地震やスリランカ紛争後の事業立ち上げ、イラク、リベリア、南スーダン等における人道・開発支援に従事。その後ジャパン・プラットフォームにて、国内外の人道支援への助成事業、各支援関係者等との連携調整を統括。2023年7月より人道支援を専門とするフリーランスとして活動。緊急人道支援学会理事。

三宅隆史 / みやけたかふみ 「支援調整への住民参加」

教育協力 NGO ネットワーク事務局長、立教大学文学部特任教授(成人学習・社会教育論)、シャ

ンティ国際ボランティア会(SVA)教育事業アドバイザー、緊急人道支援学会監査役、開発教育協会理事。ミャンマー難民キャンプ、アフガニスタン、ネパールで教育開発・人道支援事業に従事した。著書に『国際協力 NGO による持続可能な開発のための教育—SDGsのための社会的実践を通じた学び』(デザインエッグ社)等がある。

## ■ セッションの流れ

全体進行: 三宅

- 1645-1650 開会、流れの説明
- 1650-1720 研究プロジェクトの趣旨と調査の概要  
調査結果(20)と質疑(10): 柴田
- 1720-1733 住民参加: 三宅
- 1733-1746 中間支援組織と情報共有会議: 柴田
- 1746-1759 レジリエンスと多重災害: 桑名
- 1759-1815 全体討論とまとめ